

「第 55 回日本緑化工学会大会」案内

第 55 回日本緑化工学会大会運営委員長 橘 隆一

第 55 回日本緑化工学会大会を下記のとおり東京農業大学および東京都内にて開催いたします。多数の皆様のご参加をお待ちしています。最新情報は大会 Web サイトに掲載しますので、随時ご参照下さい。

本大会の「現地見学会」、「公開シンポジウム」、「大会参加」は、森林・自然環境技術者教育会（JAFEE）の CPD（技術者継続教育）の履修実績として申請することができます。森林・自然環境技術者教育会（森林分野 CPD）は建設系 CPD 協議会と連携しています。

1. 大会概要

(1) 日程 2024 年 9 月 12 日（木）～14 日（土）

2024 年 9 月 12 日（木） 現地見学会「nature positive 織りなす都市・Tokyo」

2024 年 9 月 13 日（金） 東京農業大学世田谷キャンパス 1 号館（メイン会場）

08:30～17:30 大会受付 [1 階中央ロビー・本部 1 4 1 教室]
09:30～09:45 開会式 [会場 A]
09:30～16:30 ポスター展示 [1 3 1・1 3 2 教室], 資材・工法等展示 [2 階中央ロビー]
09:45～10:45 口頭発表 (1) [会場 A] / 口頭発表 (2) [会場 B]
11:00～12:30 研究集会 (1) [会場 A] / 研究集会 (2) [会場 B]
12:45～13:45 ポスター発表コアタイム A (論文, 技術報告, 研究交流発表)
14:00～15:00 総会・授賞式 [アカデミアセンター・地下 1 階 横井講堂]
15:15～17:30 シンポジウム「ヒトが生み出し・つなぐ・Tokyo のみどり」[横井講堂]
18:00～19:30 懇親会 [国際センター・2 階 榎本ホール]

2024 年 9 月 14 日（土） 東京農業大学世田谷キャンパス 1 号館（メイン会場）

08:30～16:30 大会受付 [1 階中央ロビー・本部 1 4 1 教室]
09:30～16:30 ポスター展示 [1 3 1・1 3 2 教室], 資材・工法等展示 [2 階中央ロビー]
09:00～10:15 口頭発表 (3) [会場 A] / 口頭発表 (4) [会場 B]
10:30～11:30 ポスター発表コアタイム (論文, 技術報告, 研究交流発表)
11:30～13:00 評議員会 [会場 A]
13:15～14:45 研究集会 (3) [会場 A] / 研究集会 (4) [会場 B]
15:00～16:30 研究集会 (5) [会場 A] / 研究集会 (6) [会場 B]
16:30～16:45 ポスター賞授賞式・閉会式 [会場 A]
17:00～19:30 情報交換会 [国際センター・1 階 ホール]

(2) 会場（現地見学会を除く）

東京農業大学 世田谷キャンパス 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

交通： ・小田急線 経堂駅下車 徒歩約 15 分，

千歳船橋駅下車 徒歩約 15 分，バス 5 分(千歳船橋駅～農大前)

・東急田園都市線 用賀駅下車 徒歩約 20 分，バス約 10 分(用賀～農大前)

・JR 線 渋谷駅(西口)下車，バス約 30 分(渋谷駅～農大前)

★大学内には，食堂 1 箇所，コンビニエンスストアは 1 軒あります。その他は，大学周辺に飲食店，コンビニエンスストアが複数あります。

世田谷キャンパス 見取り図



※1号館の見取り図は，次頁。

(3) 宿泊

宿泊施設の確保は早めをお願いいたします。

(4) 懇親会

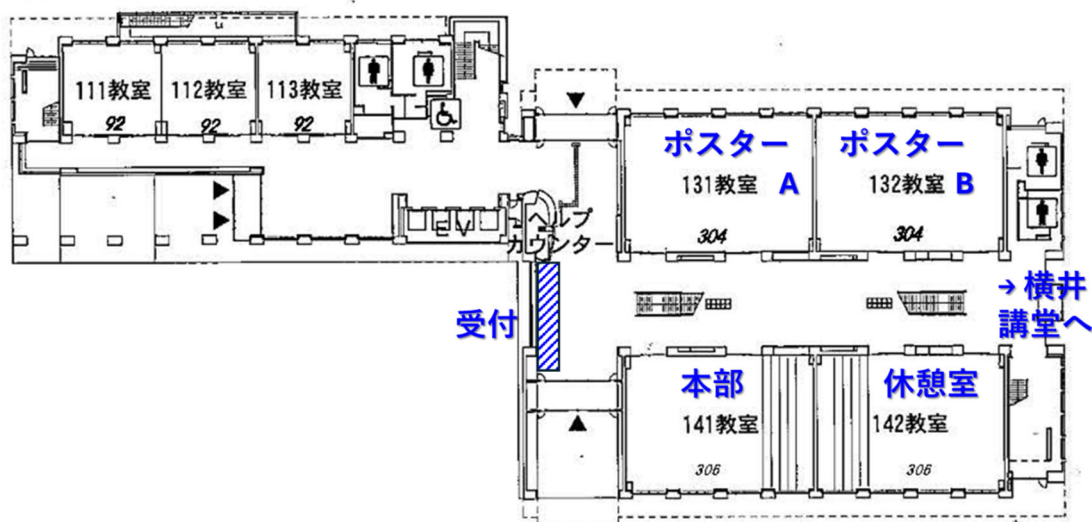
立食で行う予定です。当日参加も可能です。

(5) 情報交換会（石川県・能登震災復興応援企画）

最終日 9/14（土）の 17 時より立食で行う予定です。石川県や農大ゆかりの酒類，ドリンク，軽食を準備いたします。当日参加のみです。直接会場にて受け付け下さい。参加費 1,000 円，学生無料。優秀ポスター賞受賞者は無料でご招待。

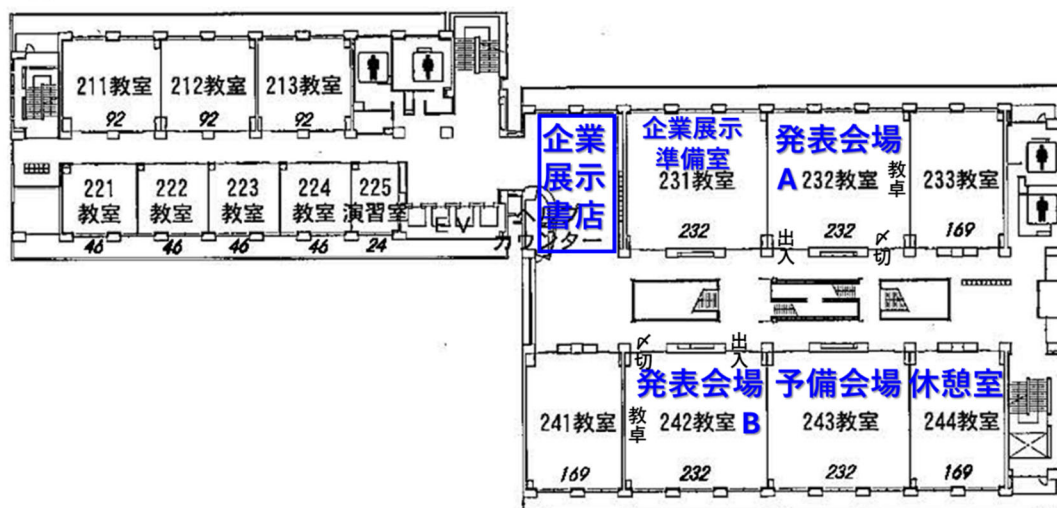
1号館1階 見取り図 (教室名の下に示す数字は定員)

1階



1号館2階 見取り図 (教室名の下に示す数字は定員)

2階



2. 参加申込方法・参加費

(1) 参加申込方法

事前申込は終了しましたので、当日、受付にて参加申込下さい。

(2) 参加費

申し込みの際には、2024 年度までの年会費の振込を忘れずにお願いいたします。なお、一旦納入された大会参加費・懇親会費等は返金いたしません。

		会 員		非 会 員	
		正 会 員	学 生 会 員	一 般	大 学 院 生 学 部 生
大会参加	前納	4,000 円	500 円	6,000 円	1,500 円
	当日	5,000 円	1,000 円		
懇親会	前納	4,000 円	1,000 円	6,000 円	1,500 円
	当日	5,000 円	1,000 円		
現地見学会	事前申 込要	3,500 円	2,500 円	4,500 円	3,500 円

※ 論文部門，技術報告部門の発表内容は大会特集号（日本緑化工学会誌第 50 巻 1 号・大会特集号）に発表内容が掲載されます。大会開催前からダウンロードは可能ですので、会員の皆様はできるだけあらかじめ各自必要データを用意してお持ち下さい。

※ 賛助会員の方は正会員と同等の条件でお申し込みいただけます。

3. 企業展示のご案内

第 55 回大会では、会期中の 9 月 13 日、14 日に会場の東京農業大学世田谷キャンパス 1 号館内にて、以下の企業展示が行われます。発表の合間等にご見学下さい。

企業展示参加企業一覧

企業名	展示内容
 水と緑の環境エンジニアリング エスペックミック株式会社 エスペックミック株式会社	国産在来種の緑化資材、実績など
 日本工営株式会社	BSC 緑化工法
 Field Research & Development フィールド開発株式会社 フィールド開発株式会社	グラブレスの製品紹介（ポスター・パンフレット・紹介映像など）
 グリーン産業株式会社 グリーン産業株式会社	はまみどりマット工法の紹介 スクリーンパネル、製品見本の展示、カタログ配布等
 日特建設株式会社	LIDAR の展示、スロープセイバーなどの緑化工法の動画放映、カタログ配付など
 株式会社グリーンエルム	CSR を活用した森づくり事業(里山 ZERO BASE)を中心とした展示 < https://greenelm.co.jp/works/002 >
 太陽と緑の国づくり 日本植生株式会社 日本植生株式会社	緑化工法の紹介パネル・サンプル展示、カタログ配付

4. 現地見学会「nature positive 織りなす都市・Tokyo」

多くの人口が暮らし作り上げてきた江戸・東京／首都圏。江戸湾から山地までをつなぐいくつかの河川により 海から山へ、生産量が多く、多様性に富んだ地域性を有し、都心エリアには皇居周辺をはじめ、多様性豊かな、歴史的に残されてきた自然があります。

東京では、東京湾に臨む土地の開発、江戸城やその周辺の造成などから、屋敷や下町、寺社への土地利用がすすむと共に 新田開発や近郊林の造成管理、さらに山地からの木材資源利用など、多面的に利用と管理が継続されてきました。森林は現在、地球温暖化対策、花粉症対策など大小の新しい問題意識も持って、積極的に管理されています。多面的機能を発揮する森づくりを目指して、継続的に資源循環／木材活用などが進められています。

今回の現地見学会では地域を俯瞰した nature positive の具体例として、多様な主体が連携して実践されてきた 東京の森林管理、二次的な自然の再生／創出などを含めた「みどり」とその歴史について考えます。

2024年9月12日（木）

（1）午前：川上の緑：多様な主体がつなぐ水源地域の森林に関わる活動や施業を見学

（日程予定）集合：9:00 青梅線河辺（かべ）駅～各見学地（貸し切りバス利用）
～13時頃 拝島駅（一時解散・各自移動）

（2）午後：都市域の緑として新しく生み出された大手町の森を見学

（再度集合）14:45頃 オーテモリ前の広場（大手町駅 C12 番出口の近く）
～大手の森見学～ 17:30 現地解散

（1）多摩川上流域の森林

午前中には東京都農林水産振興財団のご案内により、多摩川上流域の代表的な緑として、東京都が管理する森林と、そこから得られた地域産木材を加工製材する現場を見学します。東京都では「花粉の少ないスギ苗による植林」が進められており、今回は採種園の作業と施設の案内もして頂きます。直接の見学コースには入りませんが、東京の森林と、木の恵みを感じることができる体験型ショールームなどの取組についても 担当委員からご紹介いたします。

（2）都市域の緑として新しく生み出された大手町の森：

都市域における緑化について景観・生態・防災など多目的な視点から学び、今後の緑化計画や自然共生サイトなどのプロジェクトにどのように活かせるか学ぶことを目的とします。緑化を行う際に都市域での緑化は通常の緑化とは土壌基盤や外部の環境圧などが異なっているため、それぞれに対応した計画と施工が必要となってくるため大手町の森などを見学予定としています。

5. シンポジウム「ヒトが生み出し・つなぐ・Tokyoのみどり」

企画趣旨

地球規模で環境の変化が著しい昨今、私たちの暮らしを支えている緑の環境についてさらに注目を集めているところです。低炭素社会づくり、カーボンニュートラルの社会的要請とも相まって、私たちの生活環境を整えるための植物や生態系をどのように共存していくかはこれらの課題を解決する一つのカギとなっています。私たち日本人の9割は都市域に住んでいるといわれています。その都市域のみどりの多くは、ヒトの手によって造りだされ、現在の都市のみどりの骨格を形成しています。これらのみどりをどう継承していくのか、これからはどのように生み出していくのか、どのようなみどりであるべきなのかについて、この分野に精通した専門家から話題提供いただき、都市から広がる多くのみどり環境の実現に向けて一緒に議論をしていきたいと思っています。

日時および会場

日時 2024年9月13日（金） 15時開場 15:15～17:30

会場 東京農業大学世田谷キャンパス アカデミアセンター 横井講堂

プログラム

15:00～ 公開シンポジウム 開場

15:15～15:20 趣旨説明

15:20～16:00 基調講演1 濱野周泰氏（東京農業大学客員教授）

16:00～16:20 話題提供1 鈴木菜々子氏（大成建設株式会社）

16:20～16:40 話題提供2 則久雅司氏（環境省九州地方環境事務所長）

16:40～17:00 基調講演2 大澤啓志氏（日本大学教授）

17:00～17:30 ディスカッション

6. タイムテーブル

日程	場所	8時		9時		10時		11時		12時		13時		14時		15時		16時		17時		18時		19時	
		30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15
12日 (木)	現地																								
		現場見学会(河辺駅集合・拝島駅解散) 9:00-13:00頃												受付 現場見学会(大手森@東京駅近) 14:45-17:30											

日程	場所		8時		9時		10時		11時		12時		13時		14時		15時		16時		17時		18時		19時	
	建物	教室等	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15
13日 (金)	1号館	1階 中央ロビー	受付・大会本部 (1 4 1 教室)																							
		会場A (2 3 2)	開会式		□頭発表(1)		研究集会(1)																			
		会場B (2 4 2)			□頭発表(2)		研究集会(2)																			
	7階ミサレ	地下1階 横井講堂																								
	国際セ	2階 榎本ホール																								
	1号館	※7階- (131&132)			ポスター・展示		※7階-コファイル A		ポスター・展示		資料・広報展示															
																									懇親会 18:00-19:30	

日程		場所	8時		9時		10時		11時		12時		13時		14時		15時		16時		17時		18時		19時	
建物		教室等																								
14日 (土)	1号館	1階 中央ロビー	受付・大会本部（1 4 1 教室）																							
		会場A（2 3 2）	□頭発表(3)				□頭発表(4)		□頭発表(5)		研究集会(3)		研究集会(4)		研究集会(5)		研究集会(6)		ポスター・賞授賞式・閉会式							
		会場B（2 4 2）													ポスター・展示		研究集会(6)									
		※7階-（131&132）																								
	国際セ	2階 中央ロビー							ポスター・展示		※7階-コファイル B															
国際セ		1階ホール	資料・広報展示																							

7. 口頭発表（論文部門・技術報告部門）

口頭発表(1)

13日（金） 9:45-10:45 会場A（232）		座長：水庭千鶴子
No.	タイトル	著者
0-01-A	森林内空隙構造と微気象との関係	加藤 顕・青柳 寛太郎・中島 史雄・瀬戸口 浩彰
0-02-A	壁面緑化植物による炭素固定量の簡易推定法の検討	中村真優・高橋 輝昌・中村 純子・関根 大樹・荒井 幸司
0-03-T	圧縮空気を使ったエアレーションによる土壌物理性改善効果の検証	高橋輝昌・石井匡志・荻野淳司
0-04-T	切土のり面における根系の斜面安定性への寄与に関する考察	津田優一・川西良宜

A: 論文, T: 技術報告

口頭発表(2)

13日（金） 9:45-10:45 会場B（242）		座長：小宅由似
No.	タイトル	著者
0-05-A	表層崩壊後のレガシー活用緑化を植物機能形質に注目して評価する	本郷悠夏・森本 淳子・堀田 亘・饗庭 正寛・中村 太士
0-06-A	地域性種苗を用いて緑化した都市緑地における生物多様性創出の評価	田村和也・佐野 香織・石田 弘明
0-07-T	若齢トウネズミモチの伐採後の萌芽再生能力	大澤啓志・石丸智浩・有田匡輝
0-08-T	i-Tree Cool Airによる雨庭構成要素に応じた暑熱低減効果の定量評価	家根橋圭佑・平林聡・森岡千恵・屋井裕幸・益田宗則・宇野誠一郎

A: 論文, T: 技術報告

口頭発表(3)

14日（土） 9:00-10:15 会場A（232）		座長：岡浩平
No.	タイトル	著者
0-09-T	愛知県の芝生地における土壌炭素蓄積量に及ぼす要因の検討	松本瑞紀・高橋輝昌・松井邦夫
0-10-T	生産性向上を目的とした大容量緑化吹付工法の開発	石垣幸整・蔵谷樹
0-11-T	植生基材吹付工におけるLIDARを用いた吹付厚のリアルタイム計測精度の検証	蔵谷樹・石垣幸整・藤田哲
0-12-T	高速道路休憩施設における緑地のあり方～ゼロ次予防緑化～	漆谷綾乃・小笠原秀治・瀬江知宏・岩崎寛

A: 論文, T: 技術報告

口頭発表(4)

14日（土） 9:00-10:15 会場B（242）		座長：津田その子
No.	タイトル	著者
0-13-T	CO2固定を目的とした植栽基盤へのバイオ炭施用が緑化樹木の生育に及ぼす影響の評価	大西竹志・石黒一弘・石栗太・飯塚和也・根津郁実
0-14-T	自然侵入促進型マット工が施工された道路のり面へのアカマツ (<i>Pinus densiflora</i> Siebold et Zucc.) の侵入過程	石丸巧・中村剛・藤原宣夫
0-15-T	雑草管理ロボットによる踏圧が雑草植生に及ぼす影響	稲垣栄洋・Kunwar Ishwor Jung・瀧田萌・切岩祥和・小田部美智男・山口直信・真坂博男・大塚政洋
0-16-T	積雪寒冷地に適した緑化植物の提案	佐藤厚子・山木正彦
0-17-T	アスファルト廃材によるのり面保護植物の生育抑制について	佐藤厚子・山木正彦

A: 論文, T: 技術報告

※ 発表 12 分，質疑 3 分：計 15 分 [ベル：10 分で 1 鈴，12 分で 2 鈴，15 分で 3 鈴]

8. ポスターセッション（論文・技術報告・技術交流発表会）

コアタイムA：13日（金）12:45-13:45

No.	タイトル	著者
P-01-A	放棄二次林におけるアズマネザサの刈り取りがナラ枯れに及ぼす影響	中島宏昭・松永佳子・田村秋汰・水庭千鶴子・高橋新平
P-03-A	水分・光環境の違いが小笠原諸島絶滅危惧種2種に及ぼす影響	勝田真一・加藤顕・小牧義輝・田中健文・瀬戸口浩彰
P-05-A	クサヨシ（ <i>Phalaris arundinacea</i> L.）を利用した植生工の地盤補強効果に与える凍結融解履歴の影響	矢尾板晃弘・中村 大・宇高優介・川口貴之・川尻峻三・宗岡寿美
P-07-T	麻布台ヒルズ、虎ノ門ヒルズに出現する越冬期の鳥類の種組成	宮本脩詩・福井 亘
P-09-T	ヒノキ林における間伐木を利用した筋工付近の地表面高の変化と土砂移動量の関係	島田博匡
P-11-T	送電鉄塔敷地内における植生定着阻害に関する研究	武内千紘・柴田昌三・貫名 涼・津田その子・南光一樹
P-13-T	植物根系を含む土供試体のせん断試験時におけるAcoustic Emission計測の試み	由本達真・中村 大・川口貴之・川尻峻三・宗岡寿美
P-15-T	丘陵地谷底部の水田およびその周辺湿地における埋土種子集団の差異	中山恵都子・山田 晋
P-17-T	大阪湾の種子供給の状況から見る海浜植生維持の可能性	重村愛貴・藤原宣夫
P-19-T	実空間での植物配置によるPC作業時の作業効率及び疲労感の比較	阿部建太・川合椎奈
P-21-T	トイレ空間における植物設置が利用者の印象に与える効果	岩崎 寛・中村友紀
P-23-R	マイクロフィブリルセルロース（MFC）による雑草管理の可能性	稲垣栄洋・瀧田 萌・松田早詠・田村直之・杉村裕介
P-25-R	高速道路管理効率化のためのドローンの活用について	小澤徹三・光浪一成・晒 尚人・内田英二・井上竜次朗・増谷貴斗
P-27-R	堤防刈草の炭素ポテンシャルの推定 ～刈草の廃棄方法に着目して～	五味あずさ・黒沼尊紀・渡辺 均・増田翔平・森井みさご・水戸卓也
P-29-R	レインガーデン向け2層土壌構造の土壌水分条件に伴う透水性評価	小林紀子・織邊尚子・童 阿瑪・北島信行
P-31-R	植生シートの侵食防止効果に関する基礎的研究	村上悠一郎・中村 大
P-33-R	伐採作業の機械化試験について	松井 爽・高橋英樹・三宅哲也・中島雅之・植野豊・極楽寺隼也・品川 武・小澤徹三
P-35-R	主観的・客観的評価に基づくウォーカビリティの環境要因に関する地理的分析	今西純一・丸井恵里加・大塚芳嵩
P-37-R	種子無し生育基盤と種子定着促進ネットを組み合わせた自然侵入促進工を簡易法枠内に施工した法面の初期植生状況について	小澤信彦・小向真人・吉田 寛
P-39-R	360° カメラを活用した開空率算出の検討	小宅由似・高林 裕・小田龍聖・江口則和
P-41-R	機械学習を応用した緑地環境によるゼロ次予防推進のための疫学研究プロジェクト【第4報】	大塚芳嵩・加我宏之・今西純一・那須 守・岩崎寛
P-43-R	ネパール国カブレ郡での地域連携による森づくりの実践－Community Forestにおける30年の活動を通して－	小田幸子
P-45-R	海岸埋立地において植栽後47年を経た保安林における植物種組成と階層構造	広永勇三
P-47-R	UAV写真測量による森林小流域の積雪深推定に必要な評定点設置に関する検討	小川泰浩・阿部俊夫・久保田多余子・延廣竜彦・村上 亘
P-49-R	水景施設を利用したカワデシヤ群落復元の試みー移植から2年後の群落保全状況と環境条件の関係ー	織邊尚子・小林紀子・童 阿瑪・島多義彦
P-51-R	観葉植物鉢植が周囲の室内空気環境に及ぼす影響の実験計測	光石曉彦
P-53-R	ネナシカズラ(<i>Cuscuta japonica</i>)の種子発芽特性	内田泰三・宇治橋佑晟・早坂大亮・伊藤健太郎・入山義久
P-55-R	ゲンジボタルの生活に湿地が与える影響	藤井海地・小林拓真・有本 智・中島敦司
P-57-R	斜面上に生育するオオバアサガラとケヤマハンノキの水平根による土壌補強強度の推定	佐久間楽奈・佐藤貴紀・橘 隆一
P-59-R	漏水による短期的乾燥化が生じる小規模放棄ため池におけるセトウチサンショウウオの産卵行動	宇野涼花・有本 智・山田寛之・中島敦司
P-61-R	Space Syntax分析に基づく都市公園の空間構造と利用者行動の関係	曾根楓花・中島敦司・佐久間康富
P-63-R	季節毎の変動に着目した潜熱消費量把握のための実大高木の蒸散量の比較	手代木純
P-65-R	阿蘇・烏帽子岳登山道における緑化1年後の土壌分析結果	橘 隆一・武井美友・佐藤貴紀・中村華子

A: 論文, T: 技術報告, R: 研究交流発表会

コアタイムB：14日（土）10:30-11:30

No.	タイトル	著者
P-02-A	海岸砂丘地における飛砂の発生リスクと海浜植物の生育適地の推定	砥上音々・岡 浩平・吉崎真司
P-04-A	植生工を模擬した砂質土からなる模型盛土法面の降雨および融雪水の流出・浸透特性	及川凌雅・中村 大・川口貴之・川尻峻三・宗岡寿美
P-06-T	野生シカへの給餌型種子拡散資材の使用による排糞からのノシバ生育域拡大	田中 淳・杉原忠弘・吉原敬嗣
P-08-T	京都府長岡京市の竹林における野生動物管理の現状と課題	長野文乃・貫名 涼・柴田昌三
P-10-T	三宅島におけるスケルトン型東京クレセントロール®の土砂流出防止と植生回復への効果	武藤 恵・上條隆志・小川泰浩・石森良房
P-12-T	耕作放棄地における湿性植物群落再生のための環境評価手法の検討	矢野葉々絵・木村圭一・大黒俊哉
P-14-T	河川水辺の国勢調査における釧路川水系のハンノキ群落の変化	田嶋冬記・川嶋啓太・稲垣乃吾
P-16-T	津波被災地における復興事業による人為攪乱の強度が植生の回復に与える影響	栗栖寛和・岡 浩平・平吹喜彦・松島 肇
P-18-T	テレワーク勤務者に対する社寺内緑地のワークプレイス利用に関する意識調査	梁 健和・梅原瑞機・那須 守・岩崎 寛
P-20-T	泉北ニュータウンにおける緑道の利用実態調査	富田尚子・上町あずさ・森本順子
P-22-R	無人航空機データを用いた樹木の生態系サービス貨幣価値評価～胸高直径データを用いないモデルの開発～	江口則和・谷地俊二・平山高嗣・瀬口栄作・矢嶋 準
P-24-R	室内緑化デザインの違いが観察者の感情と脳活動の関連性に及ぼす影響	下田政博・福本寛之・星野冴子・高野瑞季
P-26-R	ツルヒヨドリ侵入初期段階における深層学習を用いた早期発見手法の検討	徳丸慶太郎・久高紘大・出岐大空・梅林俊太郎・宮城 圭・仲宗根早海・銀屋 真
P-28-R	農業経験のない市民による稲作の実現条件の把握（中間報告）～市民モニターによる実証実験報告～	加藤真司・横田樹広・平田富士男・札埜高志
P-30-R	埼玉県西部、槻川武蔵嵐山渓谷の河道における景観多様性形成プロセス	平山晴庵・今西純一
P-32-R	ネイチャーポジティブ時代に向けた和解（調和）生態学の研究動向	村上健太郎
P-34-R	庄内砂丘における砂草帯の地形が飛砂・堆砂と海浜植生分布に与える影響	鈴木ひかり・菊池俊一
P-36-R	香川県高松市の小庭園における草本の侵入・定着状況とグランドカバー植物の関係	安藤穂歩・中原康成・福田都萌・張 林瀛・岡崎慎一郎・山本高広・小宅由似
P-38-R	国内産在来木本植物種子を用いた急勾配岩盤斜面の自然回復緑化一施工4年6ヵ月後までの植生推移一	小野幸菜・小澤信彦・吉田 寛
P-40-R	阿蘇地域における地域性種苗を用いた法面緑化	古野正章・内田泰三
P-42-R	石礫層を含む基盤がタブノキとクロマツの根系伸長と引き倒し抵抗性に及ぼす影響	佐々木綾香・佐藤貴紀・橘 隆一
P-44-R	都市部の壁面緑化事例における植物の生育に関する課題の整理	岡田準人
P-46-R	街路樹下への植栽を想定した新しい低木樹種の特性評価	長嶋大貴・福原修斗・三橋勇太・佐藤澄仁
P-48-R	森林の変化が根系の崩壊防止機能に及ぼす影響	石原龍太・堤 大三
P-50-R	土壌および覆土厚の違いが地域性種苗（チカラシバ、ススキ）の発芽と出芽に及ぼす影響	大西智貴・真野文瑠・濱田 碧・中島敦司・山田 守
P-52-R	植生シート・マットへの封入方法を意図したシカ対策植物の発芽・初期成育実験	吉原敬嗣・木村元由輝・山下 剛・寺田晴香・佐藤貴紀・橘 隆一
P-54-R	地域性種苗供給体制の構築に向けた種子採取適地検討の試み	中村華子・杉万裕一・山下淳一・橘 隆一・中島敦司
P-56-R	自治体発信のナガミヒナゲシ(<i>Papaver dubium</i>)に関する注意喚起情報の分析と傾向～今後の管理の在り方を巡って～	吉川慎平
P-58-R	間伐による立木間隔の拡大がヒノキ単木の根系生長に及ぼす影響	大野千星織・登坂拓矢・佐藤貴紀・橘 隆一
P-60-R	緑化に用いられる草本植物4種の根系による土壌補強効果	末武侑大・落合博貴・佐藤貴紀・橘 隆一
P-62-R	真砂土の小規模試験盛土天端に密植した常緑広葉樹の根系分布	西野文貴・杉山太宏・山形隆三
P-64-R	常緑広葉樹苗木の風荷重現場計測と曲げ試験による幹折れ機構の比較解析	小林達明・石部由季乃・山下泰知・田邊 純・小泉章夫

A: 論文, T: 技術報告, R: 研究交流発表会

発表用ポスター作成・発表要領

1. ポスターサイズ

サイズはA0（縦 1189 mm×横 841mm）のスペースに収まるように作成してください。

2. 掲示方法

各自指定のスペースへ貼り付けをお願いします。なお、貼り付けに必要な道具は大会運営委員会で用意致します。

3. ポスターの掲示開始時刻

9月13日（金）と14日（土）の両日、掲示するようお願いします。

9月13日（金）の受付開始時間 8:30 より、ポスターを掲示することが可能です。

4. ポスター会場と発表コアタイム

ポスター会場は以下の通りです。

ポスター番号 32番まで 131教室（1号館1階）

ポスター番号 33番以降 132教室（1号館1階）

発表コアタイムは以下の通りです。発表者は、少なくとも指定されたコアタイムには必ずポスターの前に立ち、説明や質疑応答等を適宜行ってください。

奇数番号：13日（金）12:45-13:45 [コアタイム A]

偶数番号：14日（土）10:30-11:30 [コアタイム B]

5. ポスターの取り外し

9月14日（土）16時までにポスターを必ず取り外し、お持ち帰りください。なお、大学構内にポスター等を廃棄しないでください。取り外されていないポスターのある場合には、大会運営委員会で処分することがございますが、各自責任を持ってお持ち帰りください。ご理解ご協力をお願いいたします。

6. 優秀ポスター賞の表彰

若手研究者及び若手技術者を奨励するため、若手会員を筆頭者とするポスター発表を対象として、日本緑化工学会大会に相応しい優れたポスターを、論文部門、技術報告部門、研究交流発表会のそれぞれから1題選出し、大会期間中に表彰します。

優秀ポスター賞の結果は9/14（土）13時過ぎに公表予定です。受賞者は、優秀ポスター賞表彰式（同日 16:30～：会場 A）までお残りください。受賞者は同日 17:00 からの情報交換会（国際センター1階ホール）に無料にてご招待いたします。

9. 研究集会

研究集会（1） 「令和6年能登半島地震復興にむけて—未来の能登を考える—」

日 時： 2024年9月13日（金）11：00～12：30 会場 A（232）

企 画： 森本淳子（北海道大学）、橘隆一（東京農業大学）、田中淳（国土防災技術（株））、小川泰浩（森林総合研究所）、小野幸菜（東興ジオテック（株））、熊田勇斗（ロンタイ（株））

概 要：2024年元日に発生した「令和6年能登半島地震」は電気・水道・道路などの社会インフラのみならず、森林・海岸林などのグリーンインフラ（GI）に甚大な被害を与えた。斜面崩壊地は能登全域で2,141カ所以上、崩壊・堆積面積は8.2 km²との試算もあり、GIの中長期的な再生が当地域の生業再建にとって重要な課題である。そこで、緑化工学会有志が復興支援の第一段階として、主に山腹崩壊地を対象にGIの現状における調査分析を実施した結果を学会員に広く共有し、今後の課題への対応について広く意見を聞く場とする。また、自然災害が多発する昨今、緑化工学会が培ってきた技術を適切なタイミングで発信し被災地の復旧・復興に活かすには、学会として速やかに対応できる仕組みを構築する必要がある。この点についても議論する。

内 容：

- ・趣旨説明

森本淳子（北海道大学）

- ・話題提供

「能登里山地帯に発生した大規模崩壊とその復元の方向性」

柳井清治（石川県立大学）

「発生約4ヶ月後の現地を見て—緑化工の視点からの災害復興—」

田中淳（国土防災技術（株））

「能登半島地震の現状と緑化工学会への期待」

上野裕介（石川県立大学）

「GI再生にむけたアイデア」

小川泰浩（森林総合研究所）、熊田勇斗（ロンタイ（株））、柳井清治、森本淳子

- ・総合討論

司会 岩崎寛（千葉大学）

パネラー 柳井清治、上野裕介、小川泰浩、田中淳、森川政人（緑化工理事（環境省））、
飯田義彦（筑波大学）

- ・まとめ 高橋輝昌（千葉大学）

研究集会（２） 「OECMで生きる！現行自然共生サイトの現状と新制度」

日 時： 2024 年 9 月 13 日（金） 11：00～12：30 会場 B（242）

企 画： 今西 亜友美（近畿大学）・岡 浩平（広島工業大学）・小宅 由似（香川大学）・
福井 亘（京都府立大学）・宮崎 直美（帯広畜産大学）・村上 健太郎（北海道大
学）

概 要：2023 年度から始まった自然共生サイトの認定件数は順調に増加しており，当該制
度による生物多様性の保全や多様な主体の協働促進などへの効果に期待が寄せられていま
す。2024 年 4 月には，当該制度を発展させた生物多様性増進活動促進法が公布され，2025
年 4 月から施行予定です。本集会では，新法のねらいや現行制度との違い等を解説します。
また，現行制度で認定を受けたサイトの認定までのプロセスや認定後の効果等を紹介しま
す。

内 容：

- ・趣旨説明

「自然共生サイト，申請する？ 新制度の紹介と登録サイトの歩み」

小宅 由似（香川大学 創造工学部）

- ・話題提供

「生物多様性増進活動促進法制定の背景と新制度の概要」

則久 雅司（環境省 九州地方環境事務所）

「自然共生サイト登録への道」

江口 則和・谷地 俊二・立脇 隆文（人間環境大学 環境科学部）

「大学が自然共生サイト認定・OECM 登録に取り組む意義」

北岡 真吾（北海道大学サステイナビリティ推進機構）・愛甲 哲也（北海道大学大学
院農学研究院）

- ・総合討論

司会 村上 健太郎（北海道教育大学 函館校）

研究集会（３）「樹木による生態系サービスを可視化する - i-Tree Eco/Canopy ユーザーワークショップ」

日 時： 9月14日（土）13:15-14:45 会場 A（232）

企 画： 平林 聡（アメリカ農務省フォレストサービス/The Davey Tree Expert Company）

加藤 顕（千葉大学園芸学研究院）

河原典生（一般社団法人街路樹診断協会/株式会社エコル）

概 要：本集会は参加者が i-Tree Eco および Canopy を自身で操作し、より実践的な利用経験を得ることを目的としています。参加される方は事前にご自身の PC に i-Tree Eco をダウンロード、インストールしてご持参下さい。更に i-Tree Eco で解析したい樹木データをエクセルや csv ファイルで、また i-Tree Canopy で解析したい対象（街路空間や公園等）のシェープファイルをご持参下さい。これらが可能でない場合でも、企画者から提供されるデータを利用頂くことや、スクリーンでの操作をご覧頂くことでの参加も歓迎いたします。

参照：

i-Tree Eco ダウンロード：<https://www.itreetools.org/i-tree-tools-download>

樹 種 コード表：https://www.itreetools.org/documents/864/i-Tree_Eco_species_list_1.17.2023.csv

日本の樹種コード表：<https://www.itreetools.org/documents/1013/JpSpecies.xlsx>

i-Tree Canopy：<https://canopy.itreetools.org/>

内 容：

・趣旨説明

平林 聡（アメリカ農務省フォレストサービス/The Davey Tree Expert Company）

・ワークショップ 1

「i-Tree Eco の実践的利用方法について」

河原典生（一般社団法人街路樹診断協会/株式会社エコル）

加藤 顕（千葉大学園芸学研究院）

平林 聡（アメリカ農務省フォレストサービス/The Davey Tree Expert Company）

・ワークショップ 2

「i-Tree Canopy の実践的利用方法について」

加藤 顕（千葉大学園芸学研究院）

平林 聡（アメリカ農務省フォレストサービス/The Davey Tree Expert Company）

研究集会（４） 斜面緑化研究部会 研究集会「外来草本ヨシススキの分布域拡大状況の確認と課題」

日 時： 2024 年 9 月 14 日（土） 13:15-14:45 会場 B（242）

企 画： 橘 隆一（日本緑化工学会斜面緑化研究部会 / 東京農業大学地域環境科学部）

概 要：西日本では環境省の生態系被害防止外来種リストにも記載されているイネ科草本であるヨシススキの、特に緑化法面における分布域拡大が指摘されている。しかしながら、ヨシススキに関する種子の発芽特性や発芽後の初期生育特性など、その生理生態は明らかになっていない。本研究集会では、これまで分布域の拡大状況の実際と予備的に行った種子発芽試験の結果などを報告し、情報を共有する。

内 容：

・趣旨説明

「外来草本ヨシススキについて」

橘 隆一（日本緑化工学会斜面緑化研究部会 / 東京農業大学地域環境科学部）

・話題提供

「ヨシススキの分布拡大と対策の基本的な考え方」

山田 守（SPTEC・YAMADA）

「ヨシススキ種子の発芽率について」

畠中 陽菜子（東京農業大学地域環境科学部）

「ススキはヨシススキに勝てるのか？刈取り回数がヨシススキとススキの種間競合に及ぼす影響」

稲垣栄洋（静岡大学学術院農学領域）

「緑化種子への混入異種子」

吉原敬嗣（紅大貿易株式会社）

・総合討論

司会 橘 隆一（日本緑化工学会斜面緑化研究部会 / 東京農業大学地域環境科学部）

研究集会（５） 生態・環境緑化研究部会 研究集会「Nature Positive を確実に実現する
自然再生・緑化を目指して」

日 時： 2024 年 9 月 14 日（土） 15：00～16：30 会場 A（232）

企 画： 生態・環境緑化研究部会

概 要：生態・環境緑化研究部会では地域性種苗の活用や主流化に向けた取組を続けてきました。阿蘇の活動では、行政との連携により、本格的な実装段階を迎えています。長期的視野に立った植生管理や、動物からの被食対策、外来種対策に対しても有効な地域性種苗による自然再生の価値をあらためて考えながら、今後の展開について議論したいと考えています。

内 容：

- ・植生管理目標を明確にすることの必要性
- ・植生管理や地域循環における優位性を活かすための緑化・資材
まだまだできる／やれる 効率がよく質の高い緑化に向けて
- ・地域モデルの確立から地域循環へ・次世代の育成に向けて
研究者から地域・実務へ／地区から地域へ／地域から全国へ

などの話題提供を予定しています。

各話題提供の後、会場の皆様と研究部会メンバーによる総合討論を行います。

研究集会（６） 「技術交流会 何故、健全な樹木を伐ってはいけないか？」

日 時： 2024 年 9 月 14 日（土） 15:00 ～ 16:30 会場 B（242）

企 画： 築瀬 知史（東日本高速道路株式会社）

概 要：「なぜ自然を守るのか？」と同様、当たり前のことを説明するのは非常に難しいものです。特に、反意を持つ方や、知識のない方に対して納得させるのは至難と言えます。

また、私たちが考えている一般論の中には、自分では気付かない企業バイアスや思い込みなど先入観がたくさん潜んでいます。これらを疑いもなく前提として用いると技術開発や研究は陳腐化してしまいます。

今回の技術交流会では、先入観やバイアスを点検、排除しながら、参加者相互に意見、質疑を出しあい、「何故、健全な樹木を伐ってはいけないか？」について、自分なりの解答を導く参加型のセミナーです。

若手の方々の参加をお待ちしております。気楽にご参加ください。

通常、技術交流会では、企画側からの回答はバイアスとなる可能性もあるため示しませんが、今回は、時間に余裕があれば、お伝えしたいと考えております。

内 容：

- ・趣旨説明，課題提供

築瀬 知史（東日本高速道路株式会社）

- ・グループ ディスカッション

同業他社の方々と課題について話し合い

*****以降余裕があれば...

- ・発表

話し合った内容又は回答（できる限り簡単な説明で、専門外の方が納得できるもの）

- ・企画者の回答

「何故、健全な樹木を伐ってはいけないか？」

10. 大会運営委員会

委員長： 橘 隆一（東京農業大学）
副委員長： 水庭 千鶴子（東京農業大学）
委員： 佐藤 貴紀（東京農業大学）
山田 晋（東京農業大学）
阿部 建太（東京農業大学）
小川 泰浩（森林総合研究所）
中村 華子（緑化工ラボ）
石垣 幸整（日特建設株式会社）
西野 文貴（株式会社グリーンエルム）
築瀬 知史（東日本高速道路株式会社）

【大会事務局 連絡先】

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

東京農業大学地域環境科学部 森林総合科学科 治山緑化工学研究室内

第55回日本緑化工学会大会事務局

E-Mail : ryokkako.taikai@gmail.com

TEL : 03-5477-2275（問い合わせはメールでお願いします）